

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

問い合わせ先／文化財課(歴史博物館内)

☎(092)8419

一其の三十三

夏目漱石、二日市温泉に遊ぶ

温泉(ゆ)の町や

踊ると見えて

さんざめく

温泉街から聞こえてくるにぎわいを、「盆踊りをやっているよつだ」と詠んだ句です。これは夏目漱石が二日市温泉に寄った際に詠んだもので、湯町にある「御前湯」玄関前に、この句

の石碑が建立されています。漱石が二日市を訪れたのは明治29(1896)年の9月初旬、妻・鏡子を連れた新婚旅行の時でした。漱石は、同年9月25日付で、俳句の師である正岡子規に「当夏は一週間ほど九州(州)地方汽車旅行つかまつりそつろ」と手紙で報告しています。手紙に添えられた40句のうち10



「御前湯」玄関前の句碑

句には、「博多公園(福岡市東公園)」「箱崎八幡」「香椎宮」「天拝山」「太宰府天神」「観世音寺」「都府楼」「二日市温泉」「梅林寺」「船後(小)屋温泉」の前書きが記されていました。漱石夫婦はこの順序で観光し、その途中で二日市に寄ったのでしょう。明治時代の二日市温泉は、「武蔵温泉」の名で親しまれていました。しかし、漱石はこの当時呼ばれていない「二日市温泉」の名称を句に書いています。おそらく漱石は「二日市」の土地名で温泉を覚えていたのでしょう。このとき使われた名称は、句が『漱石全集』に収録されたことにより、全国に広まるようになりました。現在定着している「二日市温泉」の名は、漱石による影響も含まれているかもしれません。

